

審査基準

内容(50%)

スピーチの展開とは、スピーカーの話したい事柄や考えを聴衆が理解できるようにまとめるやり方を指します。スピーチは目的に即して序論、本論、結論から構成されなければなりません。よいスピーチは、即座に聴衆の心をつかみ、重要な結論へと聴衆を引っ張って行きます。スピーチの構成は、適切な事例や実例、情報によって支えられます。よどみない話し方によって、それらはスピーチの骨組みにうまく溶け込み、一体化されたものとして聴衆に伝えられます。

効果は、部分的には聴衆の受け止め方によって判断されますが、主として、どうスピーチが伝わったかについての審査委員の主観的な判断によります。以下のように自問することにより判断してください。「スピーカーの意図は、明確に理解できたか?」「スピーチはその目的について直接関連していたか?」「スピーカーは聴衆の関心をひきつけておく事ができたか?」「スピーチの題材は聴衆に対して適切であったか?」

スピーチの価値とは、スピーチをする正当性のことです。スピーカーは独自性があり、意味のあることを聴衆に語る責任があります。スピーカーは、聴衆に、「役に立つ良いことを教わった」と感じさせるべきです。自分の考えを面白く表現することは構いませんが、スピーチの内容は価値のあるものでなくてはなりません。

話し方(30%)

身体での表現は、効果的なコミュニケーションの一端を担います。スピーチは、深い内容を持つものでも、悲しいものでも、あるいはユーモラスなものでも、教育的なものでも、スピーカーの見た目により、さらに効果を増します。ジェスチャーや表情、立ち位置などの工夫により、スピーチのポイントが伝わり易くなります。スピーカーは、指定されたスピーキング・エリアを有効に使いながら、そこから外れないようスピーチを行います。

声はメッセージを運ぶ音です。声は柔軟性に富み、強調のために高さを変化させ、そして速さや大きさもバラエティーに富んでいる必要があります。よい声は、はっきりと聞こえますし、言葉も理解しやすくなります。

態度には、スピーチをしている時のスピーカーの本当の姿が間接的に表れます。スピーカーは、熱意と自信を持って聴衆への関心を示し、聴衆の反応に堂々と対応しながら話す必要があります。

言葉遣い(20%)

言葉の**適切さ**とは、スピーチの目的やその場の聴衆に合わせた言葉を選択することを指します。考えを明確に理解する手助けとなるような、場にふさわしい言葉を選ぶことが必要です。

言葉を**正確**に使うことにより、スピーカーの話し方ではなく、スピーチの内容に聴衆の注意が向きます。スピーカーは、文法的に正しい言葉を正確な発音で話すことにより、使っている言葉に熟達していることを示すことができます。

審査委員倫理規定

1. 審査委員は、コンテスト出場者の1位、2位、3位を選ぶ際に、いかなる偏見や先入観の影響も受けないように意識しなければなりません。どのコンテスト出場者についても、所属クラブ、エリアを考慮してはなりません。出場者の年齢、性別、人種、信条、出身国、職業、あるいは政治信念も考慮してはなりません。最大限の客観性が求められます。
2. 審査委員は、コンテスト出場者のスピーチの時間を測定しないものとします。審査を行なう際には、スピーチが時間不足あるいは時間超過となり得る可能性を考慮しません。
3. 審査委員の言動は、コンテスト規則と審査基準に従わなければなりません。コンテストを公に批判してはならず、得点、順位の公表はコンテスト運営方針に従った方法でのみ行なうものとします。